

# 東細谷地区深田古窯址群発掘調査現地説明会

2020.1.18

現在、工業用地造成に伴い、深田B～G古窯の発掘調査を順次行っています。今回は、現在調査を行っている深田D・F・G古窯の成果についてお知らせします。このうち、深田G古窯は、今回の調査で新たに確認された窯跡です。

深田古窯址群は、静岡県湖西市から豊橋市にかけて広がる湖西古窯跡群に属します。湖西古窯跡群では、6～9世紀ころに須恵器の生産が行われていました。現在約370基の窯跡が確認されており、豊橋市側だけでも約70基に及びます。作られた製品は、東は関東・東北、西は関西まで広く流通しており、各地の遺跡で出土します。

発掘調査では、深田F古窯で計8基、深田D・G古窯で各1基の須恵器の窯跡が見つかりました。深田F古窯で見つかった窯跡は、7基が7世紀末から8世紀初めごろ、1基が8世紀後半のものでした。今回報告する深田D古窯は8世紀後半、深田G古窯は7世紀末から8世紀初めごろの窯跡です。また深田D古窯のSY-1は、SY-2が廃棄された後に炭窯として転用されたものです。時期はまだ不明ですが、両者に大きな時期の違いはないと考えています



SY-2 焼台出土状況

## 深田G古窯

遺物は蓋や坏身などが出土しました。焼成不良のものが多く含まれ、焼成部の壁際や燃焼部にはこうした不良品と考えられる遺物の集中が見られました。

SY-1

SY-1

灰原範囲

陶馬

SY-2

## 深田D古窯

遺物は、蓋や坏身、盤などが多く出土しました。粘土を固めた焼台も多く出土しました。焼台は、製品を置いた際に水平に保つための台です。蓋や坏身、盤などが焼成部床面に据え置いたように出土したため、このような不良品を焼台と同じように再利用していた可能性があります。そのほか、瓦塔や陶馬などの特殊製品が出土しました。SY-1の遺物は、SY-2で作られたものと考えられます。



出土した陶馬

※右端の1点と左端の1点は  
深田D1号窯出土、その他は  
深田F1号窯出土



出土した瓦塔

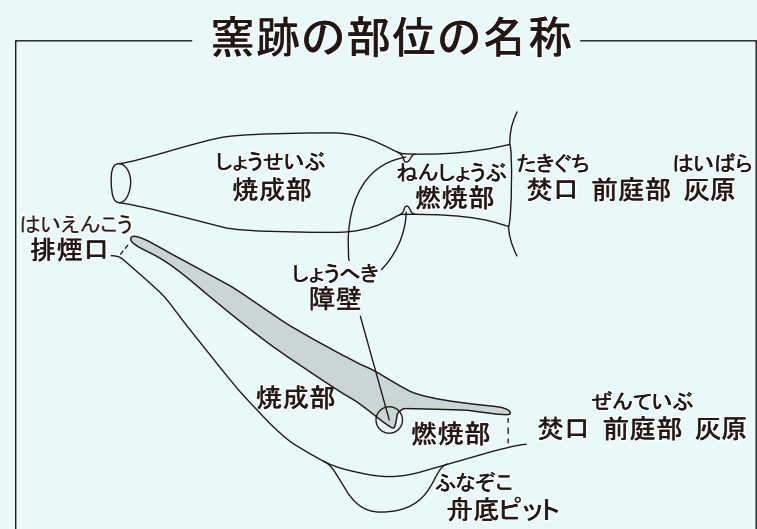
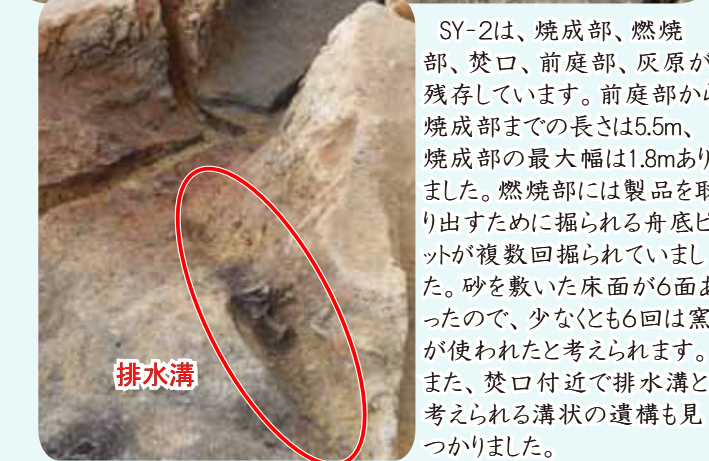


不良品の遺物集中

0 (S=1/200) 8m



# 深田D古窯



# 深田G古窯

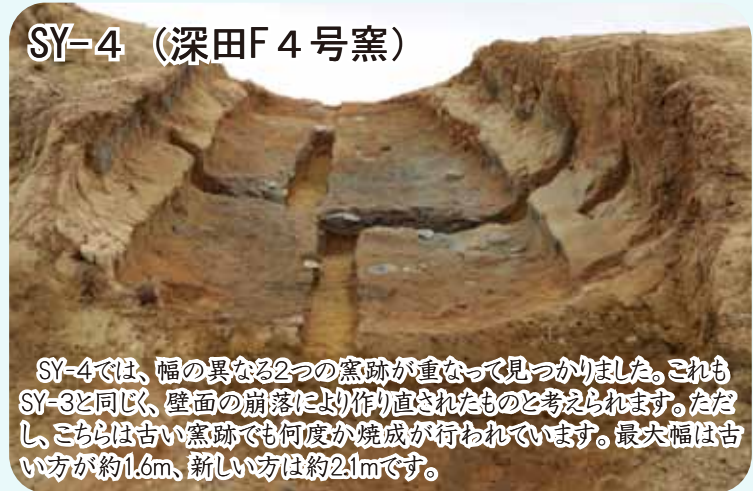


SY-1は現在調査している窯の中では残りが良く、前庭部から排煙口付近まで残存し、天井が部分的に残っていました。焚口から排煙口付近までの長さは8m弱、焼成部の最大幅は1.8mあります。天井の断面形は半円形で、残っていた箇所
の床面からの高さは約0.6mありました。焼成部奥部には、窯壁を再利用して横一列に配置した段がありました。その段は最終操業時には、砂で埋められていました。床面は3面あり、少なくとも3回以上使用されたと考えられます。



# 深田F古窯

SY-1では、床面に大型製品を据えたくぼみ(甕据えピット)と考えられるピットが20基以上見つかりました。また、この窯では砂が敷かれた床面が2面ありましたが、いずれも砂の下に床下施設が確認できました。



窯体の手前部分が地滑りによってずれてしまっている様子が観察できました。この地滑りの影響はSY-8でも見られます。しかし、半世紀ほど後に作られたSY-6の前庭部は、この地滑りによってできた段差を利用して構築されたと考えられます。そのため、かなり限られた期間に起きた地滑りと推定できます。原因は不明ですが、雨や地震、窯構築による影響などいろいろ考えられます。